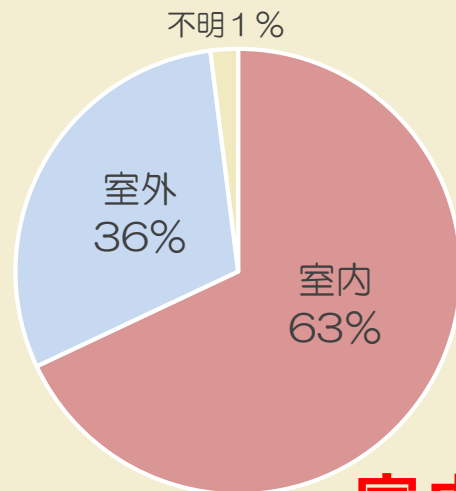


熱中症は室内でも多く発生しています

- ・令和元年は、平成30年より減少したものの、高い水準である(約1,700人)
- ・向こう3か月の西日本の平均気温は、平年より高い見込み(気象庁)

- ・ 高齢者・乳幼児はリスクが高い
 - ・ 熱中症は室内でも多く発生
 - ・ 夜も注意が必要
- 大阪市高齢者の熱中症発生場所 (令和元年)



室内が6割超

少しでも意識がしっかりしていない場合には、病院への搬送が必要

新型コロナウイルスの出現に伴う 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

①暑さを避けましょう



②適宜マスクをはずしましょう



③こまめに水分補給しましょう



④日頃から健康管理をしましょう



⑤暑さに備えた体作りをしましょう

